



私は、社員がSDGsを身近に感じられる工夫を社内につなげていきたいと思います。

今回みやぎSDGs塾に参加し、異業種の方々と関わることで多くのことを学びました。特に印象に残ったことは、同じ塾仲間のリコージャパン様とつながり、同社の見学オフィスを訪問させていただいた時のことです。社内ではゴミの分別の徹底、エコキャップ活動やフードバンクなどの取り組みが日常の空間の中に溶け込み、上手な工夫と社員の意識の高さを感じました。そこから取り組み方について参考となる情報をいただいたり、塾以外での交流にもつながり、本当に良い出会いとなりました。まさに「17番のパートナーシップ」です。企

まずは「ジブンゴト」が第一歩！

山大 本郷友恵さん

業の枠を超えての協力を感じました。今回の活動を通して私が一番大切だと感じたことはSDGsに取り組みするための第一歩はまずは「ジブンゴト」にすることです。当社は自然界での循環資源である木材を取り扱っています。木を育て伐って使うを長い間繰り返して、森林の循環をおこなってきました。事業自体がSDGsの取り組みとも言えます。社員はこのことに誇りを持ち、そしてSDGsをもっと身近なところでも意識してほしい。そう思いました。まずは日頃から皆が「ジブンゴト」として捉えられる工夫を社内に取り入れていきたいと思えます。



わたしのSDGs活動宣言

こんな活動につながっています！

社員が取り組みやすいものからスタート！社内でエコキャップの回収と全社員の個人目標の掲示から始めました。今後も皆さんの意識UPできる工夫を取り入れたいです！



今日より、ちょっといい、明日へ！ Jump!

現在はベビーリーフミックスを地元のレストランやマルシェに販売、また地元のこども食堂へ寄付を行っています。これからは愛情こもった「はーとふる野菜」をお届けしてまいります。



私は現在、名取市で障がい者の就職を支援する農園事業の立ち上げを行っています。まずは「はーとふる農園名取 所長を命ず」という一枚の紙きれ。

それまで別の事業に携わっていた私がなぜ農園？というのが当時の気持ちでした。

3か月間の実地研修を通し、今までに感じたことのない充実感とワクワク感。そこにあったものは「やる気に満ちた障がい者の表情」と「ノーマライゼーション」そのものでした。普段何気なく使っている「はーとふる」という言葉。その意味は「優しくなにあふれているさま。愛に満ちているさま。」「このこと」(デジタル大辞林・小学館)。

SDGs × 心温まる

日建リース工業 工藤雅人さん

「はーとふる」は和製英語であり、'heartful' という英語は全く存在しないという説があります。(英語圏は'heartwarming')。'はーとふる農園名取'のミッションは農園を通じて障がいのある方、ご家族、企業、農園スタッフ…そこに関わる全ての人々が「はーとふる」な気持ちになれること。心のこもった野菜は地元のレストランやスーパーへ販売することで健康を支え愛情のこもった野菜はこども食堂やフードバンクに寄付することで食に困っている人をサポートします。心が温まる「はーとふる」という言葉。農園を通してその言葉を震災被災地である名取市から東北へ。そして全国へと発信し続けることが私のミッションです。



SDGs(持続可能な開発目標)を軸に企業や個人が連携し、より豊かな地域づくりを目指すプロジェクトです。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成するなど、2021年から河北新報社が運営しています。

賛同企業 募集中!!



[申し込み・問い合わせ] 河北新報社営業部 TEL / 022-211-1318 MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

